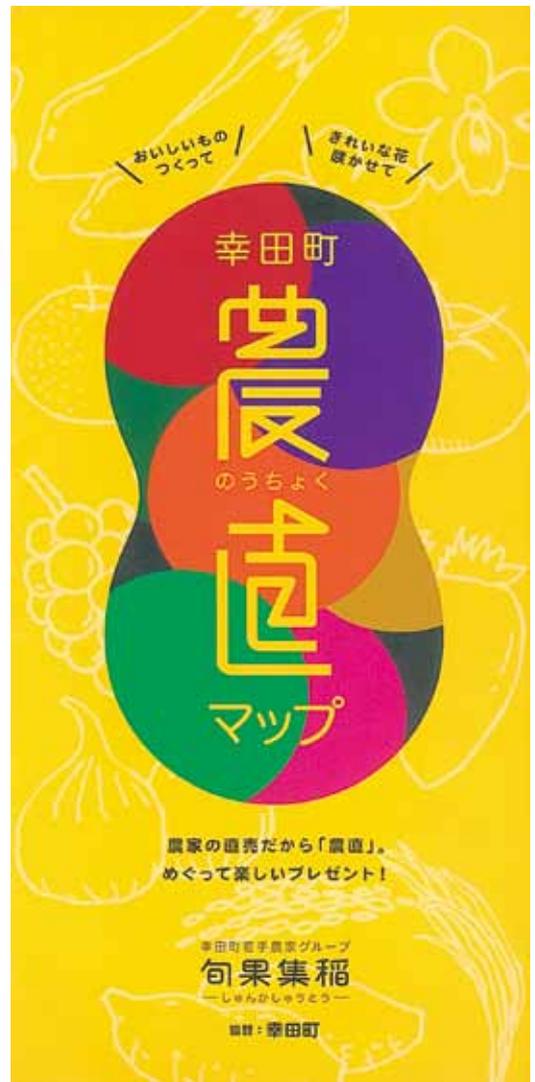


しゅう とう 集 稲

幸田町若手農家グループ



幸田駅前でトラック市を開催



私は、就農する以前、青果市場に勤務していました。そこで、農産物の販売の難しさや高齢化などに伴い、農業者が減っていることを実感しました。そんな経験から、幸田町の農業を盛り上げていきたいと思いグループを結成しました。

今後は、新たな売り方やPR方法を考え、各々の経営の向上と農業の活性化を目標に活動していきたい。

平岩 孝之さん



リーダーに聞く

今回は、幸田町若手農家グループ「旬果集稲」が、幸田町の農産物をPRしたいと奮闘している活動をうかがいました。

旬果集稲とは

「おいしいものを、おいしい時に」「美しい花を、いちばんいい時に」と、農家の直売組織「旬果集稲」は、幸田町内の若手農家が消防団活動を通じて知り合い、平成28年4月に9人でグループを結成しました。新規就農者も加わり、今は10人に仲間も増えました。農家がつって、農家が売る「農直」のグループです。「旬果集稲」では、農家まで直接行って、野菜や果物、花などを購入できます。「農直」マップを作り、「お買いあげ1000円ごとにスタンプ1個」で、スタンプ30個たまったら、好きな作物をプレゼントしています。

直接農家まで買いに行くことができない時は、メンバーの直売所（六栗）でも販売しています。

旬果集稲のメンバー

(敬称略・順不同)

- 磯部 有哉(野場)
- 田境 友洋(須美)
- 浅井 裕司(須美)
- 平岩 孝之(須美)
- 加藤 敏広(須美)
- 稲吉 繁光(逆川)
- 稲吉 拓哉(深溝)
- 夏目 幸希(上六栗)
- 鈴木 裕太(野場)
- 大須賀丈児(岡崎市)

もっと身近な議会に

住民の声を聞く

パート 18

旬果



旬果集稲が発足して変わったこと

- ・消費者と顔を合わせ、話をしながら販売することで、より安心して買っていたけると改めて気付いた。
- ・問い合わせの電話が増え、販売に対する意識が高まった。
- ・農業に転職し友人がいな



丹精こめて

かったが、グループに入り農業仲間が増えた。農家のこだわりをもった新鮮な野菜・果物が、一般の人に興味をもってもらえることを感じた。

若手農業者としての悩みや課題

- ・新規就農のため、今後どのように収入を増やすか販売ルートの確立
- ・若手農業者を増やす
- ・住宅地が増え農業がやりにくくなってきた
- ・個々の栽培技術の向上と高単価での販売
- ・新しい事にも挑戦し時代に対応していくこと

今後取り組んでいきたいこと

- ・直売や駅前市など通じて地産地消をもっと広げる
- ・生産者として安心安全な農産物を作り、自分たちで販売し幸田町の農産物をPRしたい。



表紙写真

新学期、地域の人に登校を見守られ、やさしい上級生と一緒に初登校する子どもたち。

4月9日(月) 高力大正交差点



議会だより

1. 読んでいますか
時々読む……3人
読んでいない……4人
 2. どんな内容が知りたいですか
農業に関する事
町政に望むこと
6次産業への支援
- 本稿の編集にご協力いただきお礼申し上げます。
旬果集稲のみなさんの活動を期待します。
- ・農業を志す人のよい受け皿になってほしい
 - ・新規就農者への土地・ハウスの斡旋
 - ・農業で農家が幸せになるようなこと
 - ・農家を増やすための施策や活動費



消費者と対面販売